



CHAPTER

1

基本的なシステム コマンド

この章では、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチで使用可能な基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。これらのコマンドを使用して、スイッチを操作し、制御することができます。

banner motd

ユーザが Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチにログインすると表示される Message-of-The-Day (MoTD) バナーを設定するには、**banner motd** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

banner motd delimiter message delimiter

no banner motd

シンタックスの説明

<i>delimiter</i>	区切り文字として、メッセージの先頭と末尾を示す、メッセージ中では使用しない文字を指定します。" または % は、区切り文字に使用しないでください。スペースは機能しません。
<i>message</i>	メッセージのテキストを指定します。テキストは英数字で、大文字と小文字が区別されます。また、特殊文字を含めることができます。選択した区切り文字を含めることはできません。テキストの最大長は 80 文字で、最大行数は 40 行です。

コマンドのデフォルト

デフォルトの MoTD 文字列は「Nexus 5000 Switch」です。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

複数行の MoTD バナーを作成するには、区切り文字を入力する前に **Enter** キーを押して、新しい行を開始します。40 行までのテキストを入力できます。

例

次に、1 行の MoTD バナーを設定する例を示します。

```
switch(config)# banner motd #Unauthorized access to this device is prohibited!#
```

次に、複数行の MoTD バナーを設定する例を示します。

```
switch(config)# banner motd #Welcome Authorized Users
> Unauthorized access prohibited!#
```

次に、デフォルトの MoTD バナーに戻す例を示します。

```
switch(config)# no banner motd
```

関連コマンド

コマンド	説明
show banner motd	MoTD バナーを表示します。

boot

Cisco Nexus 5000 シリーズ キックスタートまたはシステム ソフトウェア イメージのブート変数を設定するには、**boot** コマンドを使用します。ブート変数をクリアするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
boot {kickstart | system} [bootflash:] [//server/] [directory] filename
```

```
no boot {kickstart | system}
```

シンタックスの説明

kickstart	キックスタート イメージを設定します。
system	システム イメージを設定します。
bootflash:	(任意) ブートフラッシュ ファイル システムの名前を指定します。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前を指定します。有効な値は <i>///</i> 、 <i>//module-1/</i> 、 <i>//sup-1/</i> 、 <i>//sup-active/</i> 、または <i>//sup-local/</i> です。2 個のスラッシュ (<i>//</i>) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	キックスタート イメージまたはシステム イメージのファイル名を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *bootflash://server/directory/filename* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Cisco NX-OS ソフトウェアは、起動時にブート変数を使用してイメージをロードします。リロードする前に、スイッチに正しいイメージをコピーする必要があります。

例

次に、システムのブート変数を設定する例を示します。

```
switch(config)# boot system bootflash:n5000.bin
```

次に、キックスタートのブート変数を設定する例を示します。

```
switch(config)# boot kickstart bootflash:n5000-kickstart.bin
```

次に、システムのブート変数をクリアする例を示します。

```
switch(config)# no boot system
```

次に、キックスタートのブート変数をクリアする例を示します。

```
switch(config)# no boot kickstart
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy	ファイルをコピーします。
show boot	ブート変数の設定情報を表示します。

cd

デバイス ファイル システムの現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。

```
cd [filesystem:] [//server/] directory
```

シンタックスの説明	filesystem:	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash または volatile です。
	//server/	(任意) サーバの名前を指定します。有効な値は ///、// module-1/ 、// sup-1/ 、// sup-active/ 、または // sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
	directory	変更先ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) `filesystem://server/directory` 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 現在の作業ディレクトリを確認するには、**pwd** コマンドを使用します。

例 次に、現在のファイル システム上で現在の作業ディレクトリを変更する例を示します。

```
switch# cd my-scripts
```

次に、別のファイル システム上に現在の作業ディレクトリを変更する例を示します。

```
switch# cd volatile:
```

関連コマンド	コマンド	説明
	pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

clear cli history

コマンドの履歴をクリアするには、**clear cli history** コマンドを使用します。

clear cli history

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) で入力したコマンドの履歴を表示するには、**show cli history** コマンドを使用します。

例 次に、コマンドの履歴をクリアする例を示します。

```
switch# clear cli history
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show cli history	コマンドの履歴を表示します。

clear cores

コア ファイルをクリアするには、**clear cores** コマンドを使用します。

clear cores

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン コア ファイルに関する情報を表示するには、**show system cores** コマンドを使用します。

例 次に、コア ファイルをクリアする例を示します。

```
switch# clear cores
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show system cores	コア ファイル名を表示します。
	system cores	コア ファイル名を設定します。

clear debug-logfile

デバッグ ログ ファイルの内容をクリアするには、**clear debug-logfile** コマンドを使用します。

clear debug-logfile *filename*

シンタックスの説明	<i>filename</i>	クリアするデバッグ ログ ファイルの名前を指定します。
-----------	-----------------	-----------------------------

コマンドのデフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、デバッグ ログ ファイルをクリアする例を示します。

```
switch# clear debug-logfile syslogd_debugs
```

関連コマンド	コマンド	説明
	debug logfile	デバッグ ログ ファイルを設定します。
	debug logging	デバッグのロギングをイネーブルにします。
	show debug logfile	デバッグ ログ ファイルの内容を表示します。

clear install failure-reason

ソフトウェアをインストールできなかった理由をクリアするには、**clear install failure-reason** コマンドを使用します。

clear install failure-reason

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、ソフトウェアをインストールできなかった理由をクリアする例を示します。

```
switch# clear install failure-reason
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show install all	ソフトウェア インストールのステータス情報を表示します。

clear license

ライセンスをアンインストールするには、**clear license** コマンドを使用します。

clear license *filename*

シンタックスの説明	<i>filename</i>	アンインストールするライセンス ファイルを指定します。
-----------	-----------------	-----------------------------

コマンドのデフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例	次に、特定のライセンスをアンインストールする例を示します。 switch# clear license fm.lic
---	--

関連コマンド	コマンド	説明
	show license	ライセンス情報を表示します。

clear user

特定のユーザをログアウトさせるには、**clear user** コマンドを使用します。

clear user *username*

シンタックスの説明	<i>username</i>	ログアウトさせるユーザの名前を指定します。
-----------	-----------------	-----------------------

コマンドのデフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例	次に、特定のユーザをログアウトさせる例を示します。
---	---------------------------

```
switch# clear user admin
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show users	現在、スイッチにログインしているユーザを表示します。

cli var name

端末セッションのコマンドライン インターフェイス (CLI) 変数を定義するには、**cli var name** コマンドを使用します。CLI 変数を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cli var name *variable-name variable-text*

no cli var name *variable-name*

シンタックスの説明	変数名を指定します。この名前は 31 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<i>variable-name</i>	
<i>variable-text</i>	変数のテキストを指定します。この名前は 200 文字以下の英数字で、スペースを含むことができます。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 次の構文を使用して CLI 変数を参照できます。

```
$(variable-name)
```

次のインスタンスに変数を使用できます。

- コマンド スクリプト
- ファイル名

変数の定義内では、別の変数を参照できません。

Cisco NX-OS ソフトウェアは、TIMESTAMP という定義済みの変数を提供しており、これを使用して時刻を挿入できます。TIMESTAMP CLI 変数は、変更することも削除することもできません。

CLI 変数の定義は変更できません。変更する場合は、変数を削除した後に、新しい定義で再作成する必要があります。

例 次に、CLI 変数を定義する例を示します。

```
switch# cli var name testvar interface ethernet 1/3
```

次に、CLI 変数を参照する例を示します。

```
switch# show $(testvar)
```

次に、TIMESTAMP 変数を参照する例を示します。

```
switch# copy running-config > bootflash:run-config-$(TIMESTAMP).cnfg
```

次に、CLI 変数を削除する例を示します。

```
switch# cli no var name testvar
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>run-script</code>	コマンド スクリプトを実行します。
<code>show cli variables</code>	CLI 変数を表示します。

clock set

手動で Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチのクロックを設定するには、**clock set** コマンドを使用します。

clock set *time day month year*

シンタックスの説明

<i>time</i>	時刻を指定します。指定する形式は <i>HH:MM:SS</i> です。
<i>day</i>	日 (月の) を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 31 です。
<i>month</i>	月を指定します。有効値は January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November 、および December です。
<i>year</i>	年を指定します。指定できる範囲は 2000 ~ 2030 です。

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、NTP サーバなどの外部のクロック ソースとスイッチを同期できないときに使用します。

例

次に、手動でクロックを設定する例を示します。

```
switch# clock set 12:00:00 04 July 2008
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	クロックの時刻を表示します。

clock summer-time

サマータイム（夏時間）オフセットを設定するには、**clock summer-time** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock summer-time *zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month end-time offset-minutes*

no clock summer-time

シンタックスの説明

<i>zone-name</i>	タイムゾーンの文字列を指定します。タイムゾーン文字列は 3 文字の文字列です。
<i>start-week</i>	サマータイム オフセットを開始する週が、その月の何番目の週であるかを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 5 です。
<i>start-day</i>	サマータイム オフセットを開始する曜日を指定します。有効値は Monday 、 Tuesday 、 Wednesday 、 Thursday 、 Friday 、 Saturday 、または Sunday です。
<i>start-month</i>	サマータイム オフセットを開始する月を指定します。有効値は January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November 、および December です。
<i>start-time</i>	サマータイム オフセットを開始する時刻を指定します。指定する形式は <i>HH:MM</i> です。
<i>end-week</i>	サマータイム オフセットを終了する週が、その月の何番目の週であるかを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 5 です。
<i>end-day</i>	サマータイム オフセットを終了する曜日を指定します。有効値は Monday 、 Tuesday 、 Wednesday 、 Thursday 、 Friday 、 Saturday 、または Sunday です。
<i>end-month</i>	サマータイム オフセットを終了する月を指定します。有効値は January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November 、および December です。
<i>end-time</i>	サマータイム オフセットを終了する時刻を指定します。指定する形式は <i>HH:MM</i> です。
<i>offset-minutes</i>	クロックのオフセットを分単位で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 1440 です。

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

なし

例

次に、サマータイムまたは夏時間のオフセットを設定する例を示します。

```
switch(config)# clock summer-time PDT 1 Sunday March 02:00 5 Sunday November 02:00 60
```

次に、サマータイムをデフォルト オフセットに戻す例を示します。

```
switch(config)# no clock summer-time
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	クロックのサマータイム オフセット設定を表示します。

clock timezone

Coordinated Universal Time (UTC; 世界標準時) からのタイムゾーン オフセットを設定するには、**clock timezone** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock timezone *zone-name offset-hours offset-minutes*

no clock timezone

シンタックスの説明

<i>zone-name</i>	ゾーン名を指定します。ゾーン名は、タイムゾーンの略語 (PST、EST など) である 3 文字の文字列です。
<i>offset-hours</i>	UTC からのオフセット時間数を指定します。指定できる範囲は -23 ~ 23 です。
<i>offset-minutes</i>	UTC からのオフセット分数を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 59 です。

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、デバイスのクロックに UTC からのオフセットを設定するために使用します。

例

次に、UTC からのタイムゾーン オフセットを設定する例を示します。

```
switch(config)# clock timezone PST -8 0
```

次に、タイムゾーン オフセットをデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# no clock timezone
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	クロックの時刻を表示します。

configure session

コンフィギュレーション セッションを作成または変更するには、**configure session** コマンドを使用します。

configure session *name*

シンタックスの説明

<i>name</i>	セッションの名前を指定します。名前は、最大 63 文字までの英数字で、大文字と小文字が区別されます。
-------------	--

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンフィギュレーション セッションを作成する例を示します。

```
switch# configure session MySession
switch(config-s)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show configuration session	コンフィギュレーション セッションに関する情報を表示します。

configure terminal

コンフィギュレーション モードを開始するには、**configure terminal** コマンドを使用します。

configure terminal

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、コンフィギュレーション モードを開始するために使用します。このモードでのコマンドは、入力 (**Enter** キー / **CR** を使用) と同時に実行コンフィギュレーション ファイルに書き込まれます。

configure terminal コマンドを入力した後は、システム プロンプトが **switch#** から **switch(config)#** に変わり、ルータがコンフィギュレーション モードであることが示されます。コンフィギュレーション モードを終了して EXEC モードに戻るには、**end** と入力するか、**Ctrl** キーを押した状態で **Z** キーを押します。

変更した設定を表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

例 次に、コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルとして保存します。
	end	コンフィギュレーション セッションを終了して、EXEC モードに移行します。
	exit (グローバル)	現在のコンフィギュレーション モードを終了して、その次に高度なコンフィギュレーション モードへと移行します。
	show running-config	現在の実行コンフィギュレーションを表示します。

copy

コピー元からコピー先へとファイルをコピーするには、**copy** コマンドを使用します。

copy *source-url destination-url*

シンタックスの説明

<i>source-url</i>	コピー元のファイルまたはディレクトリの場所の URL（または変数）を指定します。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー元がローカルの場合とリモートの場合があります。
<i>destination-url</i>	コピーしたファイルまたはディレクトリのコピー先 URL（または変数）を指定します。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー先がローカルの場合とリモートの場合があります。

コピー元とコピー先の URL の形式は、ファイルまたはディレクトリの場所によって異なります。Cisco NX-OS ファイル システムの構文 (*filesystem:[/directory][/filename]*) に従ったディレクトリ名またはファイル名の CLI 変数を入力できます。

次の表は、ファイル システムのタイプごとの URL プレフィクス キーワードのリストです。URL プレフィクス キーワードを指定しない場合、ルータは、現在のディレクトリでファイルを検索します。

表 1-1 は、書き込み可能なローカルストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。表 1-2 は、リモート ファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。表 1-3 は、書き込み不可のファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。

表 1-1 書き込み可能なローカルストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
bootflash:[/server/]	ブートフラッシュ メモリのコピー元またはコピー先の URL を指定します。 <i>server</i> 引数の値は module-1 、 sup-1 、 sup-active 、または sup-local です。
volatile:[/server/]	デフォルトの内部ファイル システムのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このファイル システムに格納されたファイルまたはディレクトリはすべて、スイッチのリブート時に消去されます。 <i>server</i> 引数の値は module-1 、 sup-1 、 sup-active 、または sup-local です。

表 1-2 リモート ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
ftp:	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 ftp:[/server][/path]/filename
scp:	Secure Shell (SSH; セキュア シェル) をサポートし、Secure Copy Protocol (SCP) を使用してファイルのコピーを受け入れるネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 scp:[/][username@]server[/path]/filename

表 1-2 リモートファイル システムの URL プレフィクス キーワード (続き)

キーワード	コピー元またはコピー先
sftp:	SSH FTP (SFTP) ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 sftp:[//[username@]server][[/path]/filename]
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 tftp:[//server[:port]][[/path]/filename]

表 1-3 特殊ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
core:	コア ファイルのローカル メモリを指定します。コア ファイルをコア ファイル システムからコピーできます。
debug:	デバッグ ファイルのローカル メモリを指定します。デバッグ ファイルをデバッグ ファイル システムからコピーできます。
log:	ログ ファイルのローカル メモリを指定します。ログ ファイルをログ ファイル システムからコピーできます。
modflash:	mod ファイルの外部メモリを指定します。mod ファイルを modflash ファイル システムからコピーできます。
nvrnram:	ローカル NVRAM を指定します。スタートアップ コンフィギュレーションを nvrnram ファイル システムへ、または nvrnram ファイル システムからコピーできます。nvrnram ファイル システムの使用は、コマンドで startup-config ファイルを参照するときは任意です。
system:	ローカル システム メモリを指定します。実行コンフィギュレーションをシステム ファイル システムへ、またはシステム ファイル システムからコピーできます。システム ファイル システムの使用は、コマンドで running-config ファイルを参照するときは任意です。
volatile:	ローカル揮発性メモリを指定します。揮発性ファイル システムへ、または揮発性ファイル システムからファイルをコピーできます。揮発性メモリのファイルはすべて、物理デバイスがリロードすると失われます。

コマンドのデフォルト コピー先ファイルのデフォルト名はコピー元ファイル名です。

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

copy コマンドを使用すると、1 つの場所から別の場所へファイル（システム イメージまたはコンフィギュレーション ファイルなど）をコピーできます。コピー元ファイルとそのコピー先は、Cisco NX-OS ファイル システムの URL で指定します。これにより、ローカルとリモートのどちらのファイルの場所でも指定できます。使用するファイル システム（ローカル メモリのコピー元またはリモートサーバなど）により、コマンドで使用する構文が決定されます。

コマンドラインに、必要なコピー元とコピー先のすべての URL 情報と使用するユーザ名を入力できます。または、**copy** コマンドを入力すると、CLI から必要な情報の入力を求められます。

コピー プロセス全体は、ネットワーク条件やファイルのサイズに応じて数分間かかる場合があります。また、それぞれのプロトコルおよびネットワークによっても異なります。

ファイル システムの URL プレフィクス キーワード（**bootflash** など）の後にはコロン（:）が必要です。

ftp:、**scp:**、**sftp:**、および **tftp:** の URL 構文では、Internet Protocol Version 4 (IPv4; インターネット プロトコル バージョン 4) アドレスまたはホスト名でサーバを表します。

ここでは、次の操作に関する使用ガイドラインを示します。

- 「サーバからブートフラッシュ メモリへのファイルのコピー」 (P.1-22)
- 「サーバから実行コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー」 (P.1-22)
- 「サーバからスタートアップ コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー」 (P.1-22)
- 「サーバ上の実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションのコピー」 (P.1-23)

サーバからブートフラッシュ メモリへのファイルのコピー

イメージをサーバからローカル ブートフラッシュ メモリにコピーするには、**copy source-url bootflash:** コマンド（**copy tftp:source-url bootflash:** など）を使用します。

サーバから実行コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

ネットワーク サーバから、デバイスの実行コンフィギュレーションにコンフィギュレーション ファイルをダウンロードするには、**copy {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}source-url running-config** コマンドを使用します。設定は、コマンドを CLI に入力した場合と同様に、実行コンフィギュレーションに追加されます。その結果、コンフィギュレーション ファイルは、以前の実行コンフィギュレーションとダウンロードされたコンフィギュレーション ファイルを組み合わせたものとなります。以前の実行コンフィギュレーションより、ダウンロードされたコンフィギュレーション ファイルが優先して適用されます。

ホスト コンフィギュレーション ファイルまたはネットワーク コンフィギュレーション ファイルをコピーできます。特定の 1 つのネットワーク サーバに適用するコマンドを含むホスト コンフィギュレーション ファイルをコピーして読み込むには、*host* のデフォルト値を受け入れます。ネットワーク上のすべてのネットワーク サーバに適用するコマンドを含むネットワーク コンフィギュレーション ファイルをコピーして読み込むには、*network* を入力します。

サーバからスタートアップ コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

ネットワーク サーバから、ルータのスタートアップ コンフィギュレーションにコンフィギュレーション ファイルをコピーするには、**copy {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}source-url startup-config** コマンドを使用します。これらのコマンドにより、スタートアップ コンフィギュレーション ファイルが、コピーしたコンフィギュレーション ファイルに置き換えられます。

サーバ上の実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションのコピー

FTP、SCP、SFTP、または TFTP を使用するネットワーク サーバに現在のコンフィギュレーション ファイルをコピーするには、**copy running-config {ftp: | scp: | sftp: | tftp:} destination-url** コマンドを使用します。ネットワーク サーバにスタートアップ コンフィギュレーション ファイルをコピーするには、**copy startup-config {ftp: | scp: | sftp: | tftp:} destination-url** コマンドを使用します。

コピーしたコンフィギュレーション ファイルのコピーはバックアップとして使用できます。

例

次に、同じディレクトリ内にファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 file2
```

次に、別のディレクトリにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 my-scripts/file2
```

次に、別のファイル システムにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 bootflash:
```

次に、別のスーパーバイザ モジュールにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 bootflash://sup-1/file1.bak
```

次に、リモート サーバからファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy scp://10.10.1.1/image-file.bin bootflash:image-file.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
delete	ファイルまたはディレクトリを削除します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
move	ファイルを移動します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

copy running-config startup-config

現在のすべての設定情報をリブート後にも使用可能になるよう、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。このコマンドを入力すると、実行中および起動時の設定が同一の内容になります。

copy running-config startup-config

シンタックスの説明 このコマンドには、追加の引数もキーワードもありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 変更した設定を表示するには、**show startup-config** コマンドを使用します。

例 次に、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存する例を示します。

```
switch# copy running-config startup-config
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show running-config	現在の実行コンフィギュレーションを表示します。
	show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルを表示します。

databits

1 文字に含まれるデータ ビットの数を変更するには、**databits** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

databits *bits*

no databits *bits*

シンタックスの説明	<i>bits</i>	1 文字中のデータ ビット数。指定できる範囲は 5 ~ 8 です。
------------------	-------------	-----------------------------------

コマンドのデフォルト	8 ビット
-------------------	-------

コマンド モード	端末ライン コンフィギュレーション
-----------------	-------------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションからだけ設定できます。
-------------------	--

例	次に、コンソール ポートのデータ ビット数を設定する例を示します。
----------	-----------------------------------

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# databits 7
```

次に、コンソール ポートのデータ ビット数をデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no databits 7
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

debug logfile

指定のファイルに **debug** コマンドの結果を出力するには、**debug logfile** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug logfile filename [size bytes]

no debug logfile filename [size bytes]

シンタックスの説明	filename	debug コマンドの出力ファイルの名前を指定します。ファイル名は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
	size bytes	(任意) ログ ファイルのサイズをバイト単位で指定します。指定できる範囲は 4096 ~ 4194304 です。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン Cisco NX-OS ソフトウェアは、log: ファイル システム ルート ディレクトリにログ ファイルを作成します。ログ ファイルを表示するには、**dir log:** コマンドを使用します。

例 次に、デバッグ ログ ファイルを指定する例を示します。

```
switch# debug logfile debug_log
```

次に、デフォルトのデバッグ ログ ファイルに戻す例を示します。

```
switch# no debug logfile debug_log
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dir	ディレクトリの内容を表示します。
	show debug logfile	デバッグ ログ ファイルの内容を表示します。

debug logging

debug コマンド出力のロギングをイネーブルにするには、**debug logging** コマンドを使用します。デバッグ ロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug logging

no debug logging

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト ディセーブル

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、**debug** コマンドの出力のロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# debug logging
```

次に、**debug** コマンドの出力のロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# no debug logging
```

関連コマンド	コマンド	説明
	debug logfile	debug コマンド出力のログ ファイルを設定します。

delete

ファイルまたはディレクトリを削除するには、**delete** コマンドを使用します。

```
delete [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

シンタックスの説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 debug 、 log 、 modflash 、または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前を指定します。有効な値は <i>///</i> 、 <i>//module-1/</i> 、 <i>//sup-1/</i> 、 <i>//sup-active/</i> 、または <i>//sup-local/</i> です。2 個のスラッシュ (<i>//</i>) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	削除するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注)

filesystem://server/directory/filename 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

削除するファイルを見つけるには、**dir** コマンドを使用します。

delete コマンドでディレクトリを削除すると、その内容も削除されます。このコマンドでディレクトリを削除する場合は、注意が必要です。

例

次に、ファイルを削除する例を示します

```
switch# delete bootflash:old_config.cfg
```

次に、ディレクトリを削除する例を示します

```
switch# delete my_dir
This is a directory. Do you want to continue (y/n)? [y] y
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>dir</code>	ディレクトリの内容を表示します。
<code>save</code>	コンフィギュレーション セッションをファイルに保存します。

dir

ディレクトリの内容を表示するには、**dir** コマンドを使用します。

```
dir [filesystem:] [//server/] [directory]
```

シンタックスの説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 debug 、 log 、 modflash 、または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。



(注)

filesystem://server/directory 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドのデフォルト

現在の作業ディレクトリの内容を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

dir コマンドを使用すると、指定したディレクトリにあるファイルのリストが表示されます。各ファイルについては、ファイルのサイズ (バイト単位)、最終変更日時、ファイル名のリストが表示されます。その後、ファイル システムの使用に関する統計が表示されます。

現在の作業ディレクトリを確認するには、**pwd** コマンドを使用します。

現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。

例

次に、ブートフラッシュのルート ディレクトリの内容を表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash:
```

次に、現在の作業ディレクトリの内容を表示する例を示します。

```
switch# dir
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
delete	ファイルまたはディレクトリを削除します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。
rmdir	ディレクトリを削除します。

echo

端末にテキスト文字列を表示するには、**echo** コマンドを使用します。

```
echo [text]
```

シンタックスの説明

<i>text</i>	(任意) 表示するテキスト文字列を指定します。このテキスト文字列は 200 文字以下の長さの英数字で、大文字と小文字を区別し、スペースを含むことができます。ここには、CLI 変数への参照も含めることができます。
-------------	---

コマンドのデフォルト

空白行です。

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドをコマンド スクリプトで使用すると、ステータス情報を表示したり、スクリプトの実行中にプロンプトを表示したりすることができます。

例

次に、コマンド プロンプトで空白行を表示する例を示します。

```
switch# echo
```

次に、コマンド プロンプトで 1 行のテキストを表示する例を示します。

```
switch# echo Script run at $(TIMESTAMP).
```

関連コマンド

コマンド	説明
run-script	コマンド スクリプトを実行します。
show cli variables	CLI 変数を表示します。

end

現在のコンフィギュレーション セッションを終了して、EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーション モードで **end** コマンドを使用します。

end

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、現在使用しているコンフィギュレーション モードにかかわらず、EXEC モードに戻ります。このコマンドは、システムの設定を終了し、EXEC モードに戻って確認手順を実行するときに使用します。

例 次の例では、**end** コマンドを使用してインターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、EXEC モードに戻ります。設定を確認するには、**show** コマンドを使用します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport host
switch(config-if)# end
switch# show interface ethernet 1/1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	exit (EXEC)	ルータからログアウトして、アクティブな端末セッションを終了します。
	exit (グローバル)	現在のコンフィギュレーション モードを終了します。

exec-timeout

コンソール ポート上または仮想端末上の非アクティブ セッションのタイムアウトを設定するには、**exec-timeout** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

exec-timeout *minutes*

no exec-timeout

シンタックスの説明	<i>minutes</i>	時間を分単位で指定します。指定できる範囲は 0 ~ 525600 です。0 分を設定すると、タイムアウトをディセーブルにします。
------------------	----------------	--

コマンドのデフォルト タイムアウトはディセーブルです。

コマンド モード 端末ライン コンフィギュレーション

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションからだけ設定できます。

例 次に、コンソール ポートの非アクティブ セッションのタイムアウトを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# exec-timeout 30
```

次に、コンソール ポートの非アクティブ セッションのタイムアウトをデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no exec-timeout
```

次に、仮想端末の非アクティブ セッションのタイムアウトを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# exec-timeout 30
```

次に、仮想端末の非アクティブ セッションのタイムアウトをデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# no exec-timeout
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール端末コンフィギュレーション モードを開始します。
line vty	仮想端末コンフィギュレーション モードを開始します。
show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

exit (EXEC)

スイッチからログアウトして、アクティブな端末セッションを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

exit

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次の例では、**exit (グローバル)** コマンドを使用して、コンフィギュレーション モードから EXEC モードに移動し、**exit (EXEC)** コマンドを使用してログアウト (アクティブなセッションを終了) しています。

```
switch(config)# exit
switch# exit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	end	コンフィギュレーションセッションを終了して、EXEC モードに移行します。
	exit (グローバル)	現在のコンフィギュレーション モードを終了して、その次に高度なコンフィギュレーション モードへと移行します。

exit (グローバル)

任意のコンフィギュレーション モードを終了して、CLI モードの階層構造で次に高度なモードに移動するには、任意のコンフィギュレーション モードで **exit** コマンドを使用します。

exit

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード すべてのコンフィギュレーション モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **exit** コマンドをコンフィギュレーション モードで使用すると、EXEC モードに戻ります。**exit** コマンドをインターフェイス、VLAN、またはゾーンの各コンフィギュレーション モードで使用すると、コンフィギュレーション モードに戻ります。最高レベルである EXEC モードでは、**exit** コマンドで EXEC モードを終了し、スイッチとの接続を切断します（詳細については **exit (EXEC)** コマンドの説明を参照してください）。

例 次に、インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了して、コンフィギュレーション モードに戻る例を示します。

```
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	end	コンフィギュレーション セッションを終了して、特権 EXEC モードに移行します。
	exit (EXEC)	ルータからログアウトして、アクティブな端末セッションを終了します。

feature fcoe

FC_FEATURES_PKG ライセンスのインストール後にバーチャルおよびネイティブのファイバ チャネル インターフェイスをイネーブルにするには、**feature fcoe** コマンドを使用します。ファイバ チャネル インターフェイスをディセーブルにして、FC_FEATURES_PKG ライセンスをライセンス マネージャ ソフトウェアに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fcoe

no feature fcoe

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト FCoE はディセーブルです。

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

FCoE 機能をイネーブルまたはディセーブルにするには、コンフィギュレーションを保存してからスイッチをリブートする必要があります。

例

次に、スイッチの FCoE をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature fcoe
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcoe mode	VLAN インターフェイスを作成します。

feature interface-vlan

VLAN インターフェイスの作成をイネーブルにするには、**feature interface-vlan** コマンドを使用します。VLAN インターフェイス機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature interface-vlan

no feature interface-vlan

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト VLAN インターフェイスはディセーブルです。

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン VLAN インターフェイスを作成する前に、**feature interface-vlan** または **svi enable** コマンドを使用してください。

例 次に、スイッチでインターフェイス上の VLAN 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature interface-vlan
```

関連コマンド	コマンド	説明
	interface vlan	VLAN インターフェイスを作成します。

feature lacp

Link Aggregation Control Protocol (LACP) をイネーブルにするには、**feature lacp** コマンドを使用します。LACP は、複数の物理ポートをバンドルして単一の論理チャネルを作成します。スイッチで LACP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature lacp

no feature lacp

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト LACP はディセーブルです。

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン LACP をディセーブルにするには、まずスイッチのすべての EtherChannel からすべての LACP 設定パラメータを削除する必要があります。

グローバルに LACP をイネーブルにした後でも、スイッチのすべての EtherChannel で LACP を実行する必要はありません。**channel-group mode** コマンドを使用して、各チャネル モードで LACP をイネーブルにします。

例 次に、スイッチ上で LACP EtherChannel をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature lacp
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show lacp	LACP に関する情報を表示します。

feature private-vlan

プライベート VLAN をイネーブルにするには、**feature private-vlan** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature private-vlan

no feature private-vlan

シンタックスの説明 なし

コマンドのデフォルト プライベート VLAN はディセーブルです。

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン プライベート VLAN コマンドは、ユーザがプライベート VLAN 機能をイネーブルにするまで使用可能になりません。

プライベート VLAN モードのスイッチに動作中のポートがある場合は、プライベート VLAN をディセーブルにはできません。



(注)

最新リリースの Cisco NX-OS を実行している Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチの PVLAN 独立ポートは、IEEE 802.1q カプセル化をサポートしておらず、トランク ポートとしては使用できません。

例 次に、スイッチでプライベート VLAN 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature private-vlan
```

関連コマンド	コマンド	説明
	private-vlan	VLAN をコミュニティ プライベート VLAN、独立 プライベート VLAN、プライマリ プライベート VLAN のいずれかに設定します。
	show vlan private-vlan	プライベート VLAN に関する情報を表示します。機能がイネーブルになっていない場合には、このコマンドは使用できません。

feature tacacs+

TACACS+ をイネーブルにするには、**feature tacacs+** コマンドを使用します。TACACS+ をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature tacacs+

no feature tacacs+

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン TACACS+ を設定する前に、**feature tacacs+** コマンドを使用する必要があります。



(注) TACACS+ をディセーブルにすると、Cisco NX-OS ソフトウェアが TACACS+ コンフィギュレーションを削除します。

例 次に、TACACS+ をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature tacacs+
```

次に、TACACS+ をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no feature tacacs+
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show tacacs+	TACACS+ 情報を表示します。

feature udd

シスコ独自の Unidirectional Link Detection (UDLD; 単方向リンク検出) プロトコルをイネーブルにするには、**feature udd** コマンドを使用します。このプロトコルを使用すると、光伝送ケーブルや銅線イーサネット ケーブルで接続されているポートにおいて、ケーブルの物理構成を監視し、単方向リンクの存在を検出できます。スイッチで UDLD をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature udd

no feature udd

シンタックスの説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト

UDLD はディセーブルです。

コマンド モード

コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

次に、スイッチの UDLD をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature udd
```

関連コマンド

コマンド	説明
show udd	管理上および動作上の UDLD ステータスを表示します。

find

特定の文字列で始まるファイル名を検索するには、**find** コマンドを使用します。

find filename-prefix

シンタックスの説明	<i>filename-prefix</i>	ファイル名の最初の部分または全体を指定します。ファイル名 プレフィクスでは、大文字と小文字が区別されます。
-----------	------------------------	---

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **find** コマンドを使用すると、現在の作業ディレクトリの下にあるサブディレクトリがすべて検索されます。**cd** コマンドと **pwd** コマンドを使用して、最初に検索するディレクトリに移動することができます。

例 次に、「n5000」で始まるファイル名を表示する例を示します。

```
switch# find n5000
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
	pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

format

ブートフラッシュ デバイスをフォーマットする、つまり、内容を消去して、工場からの出荷時の状態に戻すには、**format** コマンドを使用します。

format bootflash:

シンタックスの説明

bootflash: ブートフラッシュ ファイル システムの名前を指定します。

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ブートフラッシュ デバイスをフォーマットする例を示します。

```
switch# format bootflash:
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

gunzip

圧縮ファイルを解凍するには、**gunzip** コマンドを使用します。

```
gunzip [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

シンタックスの説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 modflash 、または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	解凍するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory/filename* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

圧縮ファイルの名前に **.gz** 拡張子が含まれている必要があります。

Cisco NX-OS ソフトウェアは、Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用して圧縮を行います。

例

次に、圧縮ファイルを解凍する例を示します

```
switch# gunzip run_cfg.cfg.gz
```

関連コマンド

コマンド	説明
dir	ディレクトリの内容を表示します。
gzip	ファイルを圧縮します。

gzip

ファイルを圧縮するには、**gzip** コマンドを使用します。

```
gzip [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

シンタックスの説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 modflash 、または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	圧縮するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注)

filesystem://server/directory/filename 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを実行した後は、指定されたファイルが、ファイル名に **.gz** 拡張子が追加された圧縮ファイルに置き換えられます。

Cisco NX-OS ソフトウェアは、Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用して圧縮を行います。

例

次に、ファイルを圧縮する例を示します。

```
switch# gzip run_cfg.cfg
```

関連コマンド

コマンド	説明
dir	ディレクトリの内容を表示します。
gunzip	圧縮ファイルを解凍します。

hostname

スイッチのホスト名を設定するには、**hostname** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

hostname *name*

no hostname

シンタックスの説明	<i>name</i>	スイッチのホスト名を指定します。この名前は 32 文字以下の長さの英数字で、大文字と小文字を区別し、特殊文字を含むことができます。
-----------	-------------	---

コマンドのデフォルト デフォルトのホスト名は「switch」です。

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン Cisco NX-OS ソフトウェアは、CLI プロンプト、およびデフォルトのコンフィギュレーション ファイル名でホスト名を使用します。

hostname コマンドは、**switchname** コマンドと同じ機能を実行します。

例 次に、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチのホスト名を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hostname Engineering2
Engineering2(config)#
```

次に、デフォルトのホスト名に戻す例を示します。

```
Engineering2# configure terminal
Engineering2(config)# no hostname
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show hostname	スイッチのホスト名を表示します。
	show switchname	スイッチのホスト名を表示します。
	switchname	スイッチのホスト名を設定します。

install all

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチにキックスタート イメージおよびシステム イメージをインストールするには、**install all** コマンドを使用します。

```
install all [kickstart kickstart-url] [system system-url]
```

シンタックスの説明

kickstart	(任意) キックスタート イメージ ファイルを指定します。
<i>kickstart-url</i>	キックスタート イメージ ファイルの完全なアドレスを指定します。大文字と小文字が区別されます。
system	(任意) システム イメージ ファイルを指定します。
<i>system-url</i>	システム イメージ ファイルの完全なアドレスを指定します。大文字と小文字が区別されます。

キックスタートおよびシステムの URL の形式は、ファイル システム、ディレクトリ、およびファイルの場所によって異なります。

次の表は、ファイル システムのタイプごとの URL プレフィクス キーワードのリストです。URL プレフィクス キーワードを指定しない場合、ルータは、現在のディレクトリでファイルを検索します。

表 1-4 は、書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。表 1-5 は、リモート ファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。リモート ファイル システムでは、特に指定しない場合、パスはリモート サーバ上のユーザのデフォルト パスです。

表 1-4 書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
bootflash:[//server/]	ブートフラッシュ メモリのコピー元 URL を指定します。server 引数の値は module-1 、 sup-1 、 sup-active 、または sup-local です。
modflash:[//server/]	外部フラッシュ ファイル システムのコピー元 URL を指定します。server 引数の値は module-1 、 sup-1 、 sup-active 、または sup-local です。
volatile:[//server/]	デフォルトの内部ファイル システムのコピー元の URL を指定します。このファイル システムに格納されたファイルまたはディレクトリはすべて、スイッチのリポート時に消去されます。server 引数の値は module-1 、 sup-1 、 sup-active 、または sup-local です。

表 1-5 リモート ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
ftp:	FTP ネットワーク サーバのコピー元の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 ftp:[//server][/path]/filename
scp:	セキュア シェル (SSH) をサポートし、Secure Copy Protocol (SCP) を使用するネットワーク サーバのコピー元の URL を指定します。構文は次のようになります。 scp:[//[username@]server][/path]/filename

表 1-5 リモート ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
sftp:	SSH FTP (SFTP) ネットワーク サーバのコピー元の URL を指定します。構文は次のようになります。 sftp:[//[username@]server][/path]/filename
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元の URL を指定します。構文は次のようになります。 tftp:[//server[:port]][/path]/filename

コマンドのデフォルト

パラメータをまったく入力しない場合は、ブート変数の値が使用されます。

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

イメージ ファイルをリモート サーバからダウンロードしてインストールするときに、サーバに関する情報もユーザ名も入力しないと、情報の入力を求められます。

このコマンドは、キックスタートおよびシステムのブート変数を設定し、イメージ ファイルを冗長 スーパーバイザ モジュールにコピーします。

install all コマンドを使用すると、スイッチ ソフトウェアがアップグレードされ、接続されているすべてのシャーシのファブリック エクステンダ ソフトウェアもアップグレードされます。ソフトウェアがコピーされている間も、ファブリック エクステンダはオンラインのままトラフィックを伝送します。ソフトウェア イメージが正常にインストールされると、親スイッチとファブリック エクステンダ シャーシは自動的にリポートされます。これにより、親スイッチとファブリック エクステンダの間のソフトウェア バージョンの互換性が維持されます。

install all コマンドを使用すると、スイッチの Cisco NX-OS ソフトウェアをダウングレードできます。ダウングレードソフトウェアに、スイッチの現在の設定との互換性があるかどうかを調べるには、**show incompatibility system** コマンドを使用し、設定の互換性に問題がある場合は、それを解決します。

例

次に、bootflash: ディレクトリから Cisco NX-OS ソフトウェアをインストールする例を示します

```
switch# install all kickstart bootflash:nx-os_kick.bin system bootflash:nx-os_sys.bin
```

次に、キックスタートおよびシステムのブート変数に設定された値を使って、Cisco NX-OS ソフトウェアをインストールする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot kickstart bootflash:nx-os_kick.bin
switch(config)# boot system bootflash:nx-os_sys.bin
switch(config)# exit
switch# copy running-config startup-config
switch# install all
```

次に SCP サーバから Cisco NX-OS をインストールする例を示します

```
switch# install all kickstart scp://adminuser@10.10.1.1/nx-os_kick.bin system
bootflash:scp://adminuser@10.10.1.1/nx-os_sys.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
reload	デバイスに新しい Cisco NX-OS ソフトウェアをリロードします。
show incompatibility system	Cisco NX-OS システム ソフトウェア イメージ間の互換性の問題を表示します。
show version	ソフトウェア バージョンに関する情報を表示します。

install license

ライセンスをインストールするには、**install license** コマンドを使用します。

```
install license [filesystem:] [//server/] [directory] src-filename [target-filename]
```

シンタックスの説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>src-filename</i>	元のライセンス ファイルの名前を指定します。
<i>target-filename</i>	(任意) ターゲットライセンス ファイルの名前を指定します。



(注)

filesystem://server/directory/filename 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドのデフォルト

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチのライセンスはすべて、工場出荷時にインストールされています。手動インストールは不要です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ターゲット ファイル名をコピー元の場所の後に指定した場合は、ライセンス ファイルがその名前でインストールされます。それ以外の場合、コピー元 URL のファイル名が使用されます。また、このコマンドはインストール前のライセンス ファイルも検証します。

例

次に、**bootflash:** ディレクトリに常駐する、**license-file** という名前のファイルをインストールする例を示します。

```
switch# install license bootflash:license-file
```

関連コマンド

コマンド	説明
show license	ライセンス情報を表示します。
show license host-id	ライセンスに使用するシャーシのシリアル番号を表示します。
show license usage	ライセンス使用情報を表示します。

line console

コンソール ポートを指定して、コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始するには、**line console** コマンドを使用します。

line console

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン コンソール回線は、コンソール ポート セッションからだけ設定できます。

例 次に、コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	databits	ポートの文字に含まれるデータ ビットの数を設定します。
	exec-timeout	ポートの非アクティブ端末タイムアウトを設定します。
	modem	ポートのモデム設定を指定します。
	parity	ポートのパリティ設定を指定します。
	show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。
	speed	ポートの送信速度と受信速度を設定します。
	stopbits	ポートのストップ ビットを設定します。

line vty

仮想端末を指定して、ライン コンフィギュレーション モードを開始するには、**line vty** コマンドを使用します。

line vty

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	exec-timeout	ポートの非アクティブ端末タイムアウトを設定します。
	session-limit	同時仮想端末セッションの最大数を設定します。
	show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

modem in

コンソール ポートでモデム接続をイネーブルにするには、**modem in** コマンドを使用します。モデム接続をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

modem in

no modem in

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト タイムアウトはディセーブルです。

コマンド モード 端末ライン コンフィギュレーション

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションからだけ設定できます。

例 次に、コンソール ポートでモデム接続をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem in
```

次に、コンソール ポートでモデム接続をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem in
```

関連コマンド	コマンド	説明
	line console	コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始します。
	show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

modem init-string

コンソール ポートに接続されたモデムに初期化文字列をダウンロードするには、**modem init-string** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

modem init-string {default | user-input}

no modem init-string

シンタックスの説明

default	デフォルトの初期化文字列をダウンロードします。
user-input	ユーザ入力の初期化文字列をダウンロードします。

コマンドのデフォルト

デフォルトの初期化文字列は ATE0Q1&D2&C1S0=1\015 です。

コマンドモード

端末ライン コンフィギュレーション

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションからだけ設定できます。デフォルトの初期化文字列 ATE0Q1&D2&C1S0=1\015 の定義は次のとおりです。

- AT : 注意
- E0 (必須) : エコーなし
- Q1 : 結果コードがオン
- &D2 : 通常の Data Terminal Ready (DTR; データ ターミナル レディ) オプション
- &C1 : データ キャリア状態の追跡がイネーブル
- S0=1 : 1 回の呼び出し音の後に応答
- \015 (必須) : 8 進数で表された復帰コード

ユーザ入力の初期化文字列を設定するには、**modem set-string** コマンドを使用します。

例

次に、コンソール ポートに接続されたモデムにデフォルトの初期化文字列をダウンロードする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string default
```

次に、コンソール ポートに接続されたモデムにユーザ入力の初期化文字列をダウンロードする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string user-input
```

次に、コンソール ポートに接続されたモデムの初期化文字列を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem init-string
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始します。
modem set-string	モデムにユーザ入力の初期化文字列を設定します。
show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

modem set-string user-input

コンソール ポートに接続されたモデムにダウンロードするためのユーザ入力の初期化文字列を設定するには、**modem set-string user-input** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

modem set-string user-input *string*

no modem set-string

シンタックスの説明

<i>string</i>	ユーザ入力の文字列を指定します。この文字列は 100 文字以下の長さの英数字で、大文字と小文字を区別し、特殊文字を含むことができます。
---------------	---

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションからだけ設定できます。

例

次に、コンソール ポートに接続されたモデムのための、ユーザ入力の初期化文字列を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string user-input ATE0Q1&D2&C1S0=3\015
```

次に、コンソール ポートに接続されたモデムのための、デフォルトの初期化文字列に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem set-string
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始します。
modem init-string	モデムにユーザ入力の初期化文字列をダウンロードします。
show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

move

あるディレクトリから別のディレクトリにファイルを移動するには、**move** コマンドを使用します。

```
move {[filesystem:] [/server/] [directory] source-filename} [filesystem:] [/server/]
      [directory] [destination-filename]
```

シンタックスの説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 debug 、 modflash 、または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前を指定します。有効な値は <i>///</i> 、 <i>//module-1/</i> 、 <i>//sup-1/</i> 、 <i>//sup-active/</i> 、または <i>//sup-local/</i> です。2 個のスラッシュ (<i>//</i>) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>source-filename</i>	移動するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>destination-filename</i>	(任意) 移動先ファイルの名前を指定します。ファイル名は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

コマンドのデフォルト

デフォルトの移動先ファイル名は、移動元のファイルと同じです。

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

copy コマンドを使用すると、ファイルのコピーを作成できます。



ヒント

同じディレクトリ内でファイルを移動することで、ファイル名を変更できます。

例

次に、別のディレクトリにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 my_files/file2
```

次に、別のファイル システムにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 volatile:
```

次に、別のスーパーバイザ モジュールにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 bootflash://sup-1/file1.bak
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
copy	ファイルのコピーを作成します。
delete	ファイルまたはディレクトリを削除します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

parity

コンソール ポートのパリティを設定するには、**parity** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
parity {even | none | odd}
```

```
no parity {even | none | odd}
```

シンタックスの説明

even	偶数パリティを指定します。
none	パリティなしを指定します。
odd	奇数パリティを指定します。

コマンドのデフォルト

デフォルトは **none** キーワードです。

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションからだけ設定できます。

例

次に、コンソール ポートにパリティを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# parity even
```

次に、コンソール ポートのデフォルトのパリティに戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no parity even
```

関連コマンド

コマンド	説明
show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

ping

別のネットワーク デバイスへのネットワーク接続性を調べるには、**ping** コマンドを使用します。

```
ping {dest-address | hostname} [count {number | unlimited}] [df-bit] [interval seconds]
[packet-size bytes] [source src-address] [timeout seconds] [vrf {vrf-name | default |
management}]
```

シンタックスの説明

<i>dest-address</i>	宛先デバイスの IPv4 アドレスを指定します。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスのホスト名を指定します。ホスト名では、大文字と小文字が区別されます。
count	(任意) 送信の回数を指定します。
<i>number</i>	ping の数を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 655350 です。デフォルトは 5 分です。
unlimited	無制限の回数の ping を許可します。
df-bit	(任意) IPv4 ヘッダーの Do-Not-Fragment ビットをイネーブルにします。デフォルトはディセーブルです。
interval <i>seconds</i>	(任意) 送信の間隔を秒数で指定します。指定できる範囲は 0 ~ 60 です。デフォルトは 1 秒です。
packet size <i>bytes</i>	(任意) 送信するパケット サイズをバイト数で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 65468 です。デフォルト値は 56 バイトです。
source <i>scr-address</i>	(任意) 使用する送信元 IPv4 アドレスを指定します。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。デフォルトは、デバイスの管理インターフェイスの IPv4 アドレスです。
timeout <i>seconds</i>	(任意) 無応答タイムアウトの間隔を秒数で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 60 です。デフォルト値は 2 秒です。
vrf { <i>vrf-name</i> default management }	(任意) 使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよびフォワーディング) を指定します。大文字と小文字が区別されます。

コマンドのデフォルト

デフォルト値については、このコマンドの「シンタックスの説明」を参照してください。

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、別のネットワーク デバイスへの接続性を調べる例を示します。

```
switch# ping 172.28.231.246
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping6	Internet Protocol Version 6 (IPv6; インターネット プロトコルバージョン 6) アドレッシングを使用して他のデバイスへの接続性を調べます。
traceroute	IP アドレスへの送信時にパケットがたどるルートを表示します。

ping6

IPv6 アドレッシングを使用して他のデバイスへのネットワーク接続性を調べるには、**ping6** コマンドを使用します。

```
ping6 {dest-address | hostname} [count {number | unlimited}] [interface intf-id] [interval seconds] [packet-size bytes] [source address] [timeout seconds] [vrf {vrf-name | default | management}]
```

シンタックスの説明

<i>dest-address</i>	宛先 IPv6 アドレスを指定します。フォーマットは、 <i>A:B::C:D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスのホスト名を指定します。ホスト名では、大文字と小文字が区別されます。
count	(任意) 送信の回数を指定します。
<i>number</i>	ping の数を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 655350 です。デフォルトは 5 分です。
unlimited	無制限の回数の ping を許可します。
interface <i>intf-id</i>	(任意) IPv6 パケットを送信するインターフェイスを指定します。有効なインターフェイス タイプは、イーサネット、ループバック、EtherChannel、および VLAN です。
interval <i>seconds</i>	(任意) 送信の間隔を秒数で指定します。指定できる範囲は 0 ~ 60 です。デフォルトは 1 秒です。
packet size <i>bytes</i>	(任意) 送信するパケット サイズをバイト数で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 65468 です。
source <i>address</i>	(任意) 使用する送信元 IPv6 アドレスを指定します。フォーマットは、 <i>A:B::C:D</i> です。デフォルトは、デバイスの管理インターフェイスの IPv6 アドレスです。
timeout <i>seconds</i>	(任意) 無応答タイムアウトの間隔を秒数で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 60 です。デフォルト値は 2 秒です。
vrf { <i>vrf-name</i> default management }	(任意) 使用する仮想ルーティングおよびフォワーディング (VRF) を指定します。大文字と小文字が区別されます。

コマンドのデフォルト

デフォルト値については、このコマンドの「シンタックスの説明」を参照してください。

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、IPv6 アドレッシングを使用して他のデバイスへの接続性を調べる例を示します。

```
switch# ping6 2001:0DB8::200C:417A vrf management
```

■ ping6

関連コマンド

コマンド	説明
<code>ping</code>	IPv4 アドレッシングを使用して他のデバイスへの接続性を調べます。
<code>traceroute6</code>	IPv6 アドレスへの送信時にパケットがたどるルートを表示します。

reload

スイッチおよび接続されたすべてのファブリック エクステンダ シャーシをリロードするか、特定のファブリック エクステンダをリロードするには、**reload** コマンドを使用します。

```
reload {all | fex chassis_ID}
```

シンタックスの説明

all	Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチ全体および接続されたすべてのファブリック エクステンダ シャーシをリブートします。
fex chassis_ID	特定のファブリック エクステンダ シャーシをリブートします。有効なシャーシ ID の範囲は 100 ~ 199 です。

コマンドのデフォルト

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチをリロードします。

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.0(1a)N2(1)	Cisco Nexus 2000 シリーズ ファブリック エクステンダのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

reload コマンドを使用すると、スイッチおよびファブリック エクステンダ上でトラフィックが中断されます。



(注)

reload コマンドでは、実行コンフィギュレーションが保存されません。デバイスの現在のコンフィギュレーションを保存するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

例

次に、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチをリロードする例を示します。

```
switch# copy running-config startup-config
switch# reload
This command will reboot the system. (y/n)? [n] y
```

次に、ファブリック エクステンダをリロードする例を示します。

```
switch# reload fex 101
WARNING: This command will reboot FEX 101
Do you want to continue? (y/n) [n] y
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	現在の実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
show version	ソフトウェア バージョンに関する情報を表示します。

rmdir

ディレクトリを削除するには、**rmdir** コマンドを使用します。

```
rmdir [filesystem: [//server/]] directory
```

シンタックスの説明	<i>filesystem</i> :	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 modflash 、または volatile です。
	// <i>server</i> /	(任意) サーバの名前を指定します。有効な値は ///、// module-1 /、// sup-1 /、// sup-active /、または // sup-local / です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
	<i>directory</i>	削除するディレクトリ名を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次の例では、ディレクトリを 1 つ削除する方法を示します。

```
switch# rmdir my_files
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
	delete	ファイルまたはディレクトリを削除します。
	dir	ディレクトリの内容を表示します。
	pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

run-script

コマンドライン インターフェイス (CLI) でコマンド スクリプト ファイルを実行するには、**run-script** コマンドを使用します。

run-script [*filesystem*://*module*/][*directory*/]*filename*

シンタックスの説明	パラメータ	説明
<i>filesystem</i> :	(任意) ファイル システムの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。	
<i>//module</i> /	(任意) スーパーバイザ モジュールの ID を指定します。有効な値は sup-active 、 sup-local 、 sup-remote 、または sup-standby です。ID では、大文字と小文字が区別されます。	
<i>directory</i> /	(任意) ディレクトリの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。	
<i>filename</i>	コマンド ファイルの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。	



(注) *filesystem://server/directory/filename* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン リモート デバイスでコマンド ファイルを作成して、それを **copy** コマンドで Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチにダウンロードする必要があります。

例 次に、コマンド スクリプト ファイルを実行する例を示します。

```
switch# run-script script-file
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
	copy	ファイルをコピーします。
	dir	ディレクトリの内容を表示します。
	echo	端末にテスト文字列を表示します。

コマンド	説明
<code>pwd</code>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。
<code>sleep</code>	定義した秒数の間、CLI を一時停止します。

save

現在のコンフィギュレーション セッションをファイルに保存するには、**save** コマンドを使用します。

save location

シンタックスの説明

<i>location</i>	ファイルの場所を指定します。保存場所には、 bootflash または volatile を指定できます。ファイル名は、63 文字以下の任意の英数文字列です。
-----------------	---

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

セッション コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンフィギュレーション セッションをブートフラッシュ内のファイルに保存する例を示します。

```
switch# configure session MySession
switch(config-s)# save bootflash:sessions/MySession
```

関連コマンド

コマンド	説明
configure session	コンフィギュレーション セッションを作成または変更します。
delete	特定の場所からファイルを削除します。

send

アクティブなユーザ セッションにメッセージを送信するには、**send** コマンドを使用します。

send [*session line*] *text*

シンタックスの説明	session line	(任意) ユーザ セッションを指定します。
	text	テキスト文字列を指定します。このテキスト文字列は 80 までの英数字で、大文字と小文字を区別します。

コマンドのデフォルト アクティブなすべてのユーザ セッションにメッセージを送信します。

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **show users** コマンドを使用すると、アクティブなユーザ セッションに関する情報を表示できます。

例 次に、スイッチでアクティブなすべてのユーザ セッションにメッセージを送信する例を示します。

```
switch# send The system will reload in 15 minutes!
The system will reload in 15 minutes!
```

次に、特定のユーザ セッションにメッセージを送信する例を示します。

```
switch# send session pts/0 You must log off the switch.
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show users	スイッチでアクティブなユーザ セッションを表示します。

setup

基本デバイス セットアップ ダイアログを開始するには、**setup** コマンドを使用します。

setup [ficon]

シンタックスの説明	ficon	(任意) 基本 ficon セットアップ コマンド ファシリティを実行します。
コマンドのデフォルト	なし	
コマンド モード	EXEC モード	
コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	セットアップ スクリプトは、ユーザが設定した値ではなく、出荷時のデフォルト値を使用します。 Ctrl キーを押した状態で C キーを押すと、どの時点でもダイアログを終了できます。	
例	次に、基本デバイス セットアップ スクリプトを開始する例を示します。 switch# setup	
関連コマンド	コマンド	説明
	show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

session-limit

デバイスの同時仮想端末セッションの最大数を設定するには、**session-limit** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

session-limit sessions

no session-limit sessions

シンタックスの説明	sessions	セッションの最大数を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 64 です。
------------------	-----------------	-------------------------------------

コマンドのデフォルト	32 セッションです。
-------------------	-------------

コマンド モード	端末ライン コンフィギュレーション
-----------------	-------------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、同時仮想端末セッションの最大数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# session-limit 48
```

次に、同時仮想端末セッションのデフォルトの最大数に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# no session-limit 48
```

関連コマンド	コマンド	説明
	line vty	仮想端末コンフィギュレーション モードを開始します。
	show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

show banner motd

Message-of-The-Day (MoTD) バナーを表示するには、**show banner motd** コマンドを使用します。

show banner motd

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、MoTD バナーを表示する例を示します。

```
switch# show banner motd
Unauthorized access is prohibited!
```

関連コマンド	コマンド	説明
	banner motd	MoTD バナーを設定します。

show boot

ブート変数の設定を表示するには、**show boot** コマンドを使用します。

show boot [variables]

シンタックスの説明	variables	(任意) ブート変数のリストを表示します。
------------------	------------------	-----------------------

コマンドのデフォルト	設定されたすべてのブート変数を表示します。
-------------------	-----------------------

コマンド モード	EXEC モード
-----------------	----------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、設定されたすべてのブート変数を表示する例を示します。

```
switch# show boot
```

次に、ブート変数名のリストを表示する例を示します。

```
switch# show boot variables
```

関連コマンド	コマンド	説明
	boot	キックスタート イメージまたはシステム イメージのブート変数を設定します。

show cli alias

コマンドエイリアス設定を表示するには、**show cli alias** コマンドを使用します。

```
show cli alias [name alias-name]
```

シンタックスの説明

name <i>alias-name</i>	(任意) コマンドエイリアスの名前を指定します。エイリアス名では、大文字と小文字は区別されません。
-------------------------------	---

コマンドのデフォルト

設定されたすべてのコマンドエイリアス変数を表示します。

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、設定されたすべてのコマンドエイリアスを表示する例を示します。

```
switch# show cli alias
```

次に、特定のコマンドエイリアスを表示する例を示します。

```
switch# show cli alias name ethint
```

関連コマンド

コマンド	説明
cli alias name	コマンドエイリアスを設定します。

show cli history

コマンドの履歴を表示するには、**show cli history** コマンドを使用します。

show cli history [*lines*] [**unformatted**]

シンタックスの説明	<i>lines</i>	(任意) コマンド履歴の末尾から指定した行数を表示します。
	unformatted	(任意) 行番号もタイム スタンプも含めずにコマンドを表示します。

コマンドのデフォルト フォーマット化された履歴全体を表示します。

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、コマンドの履歴全体を表示する例を示します。

```
switch# show cli history
```

次に、コマンド履歴の最後の 10 行を表示する例を示します。

```
switch# show cli history 10
```

次に、フォーマット化されていないコマンド履歴を表示する例を示します。

```
switch# show cli history unformatted
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clear cli history	コマンドの履歴をクリアします。

show cli variables

CLI 変数の設定を表示するには、**show cli variables** コマンドを使用します。

show cli variables

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、CLI 変数を表示する例を示します。

```
switch# show cli variables
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cli var name	CLI 変数を設定します。

show clock

現在の日時を表示するには、**show clock** コマンドを使用します。

show clock [detail]

シンタックスの説明	detail	(任意) サマータイム (夏時間) オフセットの設定を表示します。
-----------	---------------	-----------------------------------

コマンドのデフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、現在のクロックの設定を表示する例を示します。

```
switch# show clock
```

次に、現在のクロックの設定とサマータイム (夏時間) の設定を表示する例を示します。

```
switch# show clock detail
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clock set	クロックの時刻をセットします。
	clock summer-time	サマータイム (夏時間) オフセットを設定します。

show copyright

Cisco NX-OS ソフトウェアの著作権情報を表示するには、**show copyright** コマンドを使用します。

show copyright

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、Cisco NX-OS の著作権情報を表示する例を示します。

```
switch# show copyright
```

show debug logfile

デバッグ ログファイルの内容を表示するには、**show debug logfile** コマンドを使用します。

show debug logfile *filename*

シンタックスの説明	<i>filename</i>	デバッグ ログ ファイルの名前を指定します。
-----------	-----------------	------------------------

コマンドのデフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	ログ ファイルは log: ファイル システムにあります。
------------	-------------------------------

例	次に、デバッグ ログ ファイルの内容を表示する例を示します。 switch# show debug logfile dmesg
---	---

関連コマンド	コマンド	説明
	debug logfile	デバッグ ログ ファイルを設定します。

show environment

ハードウェア環境のステータスに関する情報を表示するには、**show environment** コマンドを使用します。

show environment [fan | power | temperature]

シンタックスの説明

fan	(任意) ファンの環境に関する情報を表示します。
power	(任意) 電力容量と配電に関する情報を表示します。
temperature	(任意) 温度環境に関する情報を表示します。

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ハードウェア環境に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show environment
```

次に、電源環境に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show environment power
```

show file

ローカル メモリのファイルの内容を表示するには、**show file** コマンドを使用します。

```
show file [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

シンタックスの説明	
<i>filesystem</i> :	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 modflash 、または volatile です。
// <i>server</i> /	(任意) サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	削除するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) `filesystem://server/directory/filename` 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、ファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file ent-mod.lic
```

表示するファイルがディレクトリである場合は、コマンドが次のエラー メッセージを返します。

```
switch# show file bootflash:///routing-sw  
/bin/showfile: /bootflash/routing-sw: Is a directory
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
	dir	ディレクトリの内容を表示します。
	pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

show hardware internal

物理デバイス ハードウェアに関する情報を表示するには、**show hardware internal** コマンドを使用します。

show hardware internal

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、物理デバイス ハードウェアに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show hardware internal
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show inventory	ハードウェア インベントリ情報を表示します。
	show module	モジュールに関する情報を表示します。

show hostname

スイッチのホスト名を表示するには、**show hostname** コマンドを使用します。

show hostname

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **show switchname** コマンドでも、スイッチのホスト名が表示されます。

例 次に、スイッチのホスト名を表示する例を示します。

```
switch# show hostname
```

関連コマンド	コマンド	説明
	hostname	スイッチのホスト名を設定します。
	show switchname	ホスト名を表示します。
	switchname	スイッチのホスト名を設定します。

show incompatibility system

実行中のシステム イメージと、Cisco NX-OS ソフトウェアのダウングレード前のシステム イメージとの間の設定の互換性の問題を表示するには、**show incompatibility system** コマンドを使用します。

```
show incompatibility system {filesystem: //server/ [directory] filename}
```

シンタックスの説明

<i>filesystem:</i>	ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash または volatile です。
<i>//server/</i>	サーバ名を指定します。有効な値は <i>///</i> 、 <i>//module-1/</i> 、 <i>//sup-1/</i> 、 <i>//sup-active/</i> 、または <i>//sup-local/</i> です。2 個のスラッシュ (<i>//</i>) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	ロードされたソフトウェア イメージと比較するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注)

filesystem://server/directory/filename 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、設定の互換性の問題を表示する例を示します。

```
switch# show incompatibility system bootflash://sup-local/old_image.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
install all	キックスタート イメージおよびシステム イメージをインストールします。
reload	デバイスに新しい Cisco NX-OS ソフトウェアをリロードします。
show version	ソフトウェア バージョンに関する情報を表示します。

show install all

install all コマンドの動作に関連する情報を表示するには、**show install all** コマンドを使用します。

show install all {failure-reason | impact [kickstart | system] | status}

シンタックスの説明	failure-reason	ソフトウェアをインストールできなかった理由を表示します。
	impact	ブート変数で参照されたイメージのインストールが及ぼす影響を表示します。
	kickstart	(任意) キックスタート ブート変数で参照されたキックスタート イメージのインストールが及ぼす影響を表示します。
	system	(任意) システム ブート変数で参照されたシステム イメージのインストールが及ぼす影響を表示します。
	status	ソフトウェア インストール プロセスのステータスを表示します。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、インストールできなかった理由を表示する例を示します。

```
switch# show install all failure-reason
```

次に、新しいイメージのインストールが及ぼす影響を表示する例を示します。

```
switch# show install all impact
```

次に、ソフトウェアのインストール プロセスのステータスを表示する例を示します。

```
switch# show install all status
```

関連コマンド	コマンド	説明
	install all	物理デバイスにソフトウェアをインストールします。
	show boot	ブート変数の設定を表示します。

show inventory

スイッチ ハードウェアの物理インベントリ情報を表示するには、**show inventory** コマンドを使用します。

```
show inventory [fex chassis_ID]
```

シンタックスの説明

fex chassis_ID	(任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。有効な シャーシ ID の範囲は 100 ~ 199 です。
-----------------------	--

コマンドのデフォルト

すべてのハードウェア インベントリ情報を表示します。

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.0(1a)N2(1)	このコマンドは、ファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。

例

次に、スイッチのハードウェア インベントリに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show inventory
```

次に、接続されているファブリック エクステンダのハードウェア インベントリに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show inventory fex 101
```

関連コマンド

コマンド	説明
show hardware internal	物理ハードウェアに関する情報を表示します。
show module	モジュールに関する情報を表示します。

show license

ライセンス情報を表示するには、**show license** コマンドを使用します。

show license [**brief** | **file filename**]

シンタックスの説明	brief	(任意) デバイスにインストールされているライセンス ファイルのリストを表示します。
	file filename	(任意) 特定のライセンス ファイルの情報を表示します。

コマンドのデフォルト インストールされているライセンスに関する情報を表示します。

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、スイッチにインストールされている特定のライセンスを表示する例を示します。

```
switch# show license file fc5020.lic
```

次に、デバイスにインストールされているライセンス ファイルのリストを表示する例を示します。

```
switch# show license brief
```

次に、デバイスにインストールされているすべてのライセンスを表示する例を示します。

```
switch# show license
```

関連コマンド	コマンド	説明
	install license	ライセンスをインストールします。
	show license host-id	ライセンスに使用するシャーシのシリアル番号を表示します。
	show license usage	ライセンス使用情報を表示します。

show license host-id

ライセンスに使用するスイッチ シャーシのシリアル番号（ホスト ID）を表示するには、**show license host-id** コマンドを使用します。

show license host-id

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン シリアル番号は、例に示されているように、コロン (:) の後に表示される文字列全体です。

例 次に、ノードにロックされたライセンスに必要なホスト ID を表示する例を示します。

```
switch# show license host-id
License hostid: VDH=FLC12300568
```

関連コマンド	コマンド	説明
	install license	ライセンスをインストールします。
	show license	ライセンス情報を表示します。
	show license usage	ライセンス使用情報を表示します。

show license usage

ライセンス使用情報を表示するには、**show license usage** コマンドを使用します。

show license usage [*PACKAGE*]

シンタックスの説明	<i>PACKAGE</i>	(任意) 指定したライセンス パッケージで使用中の、ライセンスされた機能のリストを表示します。
------------------	----------------	---

コマンドのデフォルト スイッチでのライセンスの使用状況を表示します。

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、現在のライセンス使用に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show license usage
Feature                               Ins  Lic  Status Expiry Date Comments
                               Count
-----
FM_SERVER_PKG                         No   -   Unused          -
ENTERPRISE_PKG                        Yes  -   Unused Never      -
FC_FEATURES_PKG                       Yes  -   In use  Never      -
```

表 1-6 に、**show license usage** コマンドの出力で使用されている各列について説明します。

表 1-6 show license usage で出力される列

列	説明
Feature	ライセンス パッケージの名前
Ins	ライセンスのインストール状況。「No」は、ライセンスがインストールされていないことを示します。「Yes」は、ライセンスがインストールされていることを示します。
Lic Count	ライセンス数。「-」は、そのライセンス パッケージでライセンス数が使用されないことを示します。このフィールドに示される数値は、機能によって現在使用されているライセンスの数です。このフィールドはサポートされていません。
Status	ライセンスの状況。「Unused」は、ライセンスを必要とする機能が 1 つもイネーブルになっていないことを示します。「In use」は、1 つ以上の機能がライセンスを使用中であることを示します。

表 1-6 show license usage で出力される列 (続き)

列	説明
Expiry Date	ライセンスの有効期限。ライセンスがインストールされていない場合、このフィールドは空白になります。ライセンスがインストールされている場合は、ライセンスに期限がないことを示す「Never」か、ライセンスの有効期限日がこのフィールドに表示されます。
Comments	追加情報。「Grace」および日単位 (D) と時間単位 (H) の残り期間は、評価用ライセンスを使用していることを示します。「license missing」は、エラーが発生していることを示します。

次に、特定のライセンスで使用中の機能のリストを表示する例を示します。

```
switch# show license usage FC_FEATURES_PKG
```

関連コマンド

コマンド	説明
install license	ライセンスをインストールします。
show license	ライセンス情報を表示します。
show license host-id	ライセンスに使用するシャーシのシリアル番号を表示します。

show line

端末ポート設定情報を表示するには、**show line** コマンドを使用します。

show line [console]

シンタックスの説明	console	(任意) コンソール ポートの設定に関する情報だけを表示します。
-----------	----------------	----------------------------------

コマンドのデフォルト	端末ポートの設定に関する情報を表示します。	
------------	-----------------------	--

コマンド モード	EXEC モード	
----------	----------	--

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例	次に、端末ポート設定に関する情報を表示する例を示します。
---	------------------------------

```
switch# show line
```

次に、コンソール ポート設定に関する情報だけを表示する例を示します。

```
switch# show line console
```

関連コマンド	コマンド	説明
	line console	コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始します。

show module

モジュール情報を表示するには、**show module** コマンドを使用します。

show module [*module-number* | **fex** [*chassis_ID* | **all**]]

シンタックスの説明

<i>module-number</i>	(任意) モジュール番号を指定します。有効値は 1 ~ 3 です。
fex	(任意) 接続されているファブリック エクステンダ装置に関する情報を表示します。
<i>chassis_ID</i>	(任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。有効なシャーシ ID の範囲は 100 ~ 199 です。
all	(任意) 接続されているすべてのファブリック エクステンダ装置に関する情報を表示します。

コマンドのデフォルト

スイッチ シャーシのすべてのモジュールに関するモジュール情報を表示します。

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.0(1a)N2(1)	このコマンドは、ファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。

例

次に、シャーシのすべてのモジュールに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show module
```

次に、特定のモジュールの情報を表示する例を示します。

```
switch# show module 2
```

次に、接続されたファブリック エクステンダに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show module fex 101
```

次に、接続されているすべてのファブリック エクステンダ装置を表示する例を示します。

```
switch# show module fex all
```

関連コマンド

コマンド	説明
show hardware internal	物理ハードウェアに関する情報を表示します。
show inventory	ハードウェア インベントリ情報を表示します。

show processes

スイッチのプロセス情報を表示するには、**show processes** コマンドを使用します。

show processes [*vdc vdc-number*]

シンタックスの説明	vdc vdc-number	(任意) 特定の Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) のプロセス情報を表示します。Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチ上の VDC は 1 つだけです。
------------------	-----------------------	--

コマンドのデフォルト スイッチで実行中のすべてのプロセスの情報を表示します。

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、デバイスのプロセス情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show processes cpu	プロセスの CPU 使用率情報を表示します。
	show processes log	プロセス ログの内容を表示します。
	show processes memory	プロセスのメモリ割り当て情報を表示します。

show processes cpu

デバイス上のプロセスの CPU 使用率情報を表示するには、**show processes cpu** コマンドを使用します。

show processes cpu

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト ローカル デバイスのすべてのプロセスの情報を表示します。

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、プロセスの CPU 使用率情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes cpu
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show processes	スイッチのプロセス情報を表示します。
	show processes log	プロセス ログの内容を表示します。
	show processes memory	プロセスのメモリ割り当て情報を表示します。

show processes log

プロセス ログの内容を表示するには、**show processes log** コマンドを使用します。

show processes log [**details** | **pid** *process-id*]

シンタックスの説明	details	(任意) プロセス ログにある詳細情報を表示します。
	pid <i>process-id</i>	(任意) 特定のプロセスのプロセス ログにある詳細情報を表示します。有効なプロセス ID の範囲は 1 ~ 2147483647 です。

コマンドのデフォルト デバイス上のすべてのプロセスの情報の要約を表示します。

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、プロセス ログにある情報の要約を表示する例を示します。

```
switch# show processes log
```

次に、プロセス ログにある詳細情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes log details
```

次に、特定のプロセスのプロセス ログにある詳細情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes log pid 3632
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show processes	スイッチのプロセス情報を表示します。
	show processes cpu	プロセスの CPU 使用率情報を表示します。
	show processes memory	プロセスのメモリ割り当て情報を表示します。

show processes memory

プロセスのメモリ割り当て情報を表示するには、**show processes memory** コマンドを使用します。

show processes memory [shared [detail]]

シンタックスの説明

shared	(任意) 共有メモリの割り当てを表示します。
detail	(任意) 共有メモリを、デフォルトのキロバイト単位でなく、バイト単位で表示します。

コマンドのデフォルト

プロセスに割り当てられたメモリを表示します。

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、プロセスのメモリ割り当てに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes memory
```

次に、プロセスの共有メモリの割り当てに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes memory shared
```

関連コマンド

コマンド	説明
show processes	スイッチのプロセス情報を表示します。
show processes cpu	プロセスの CPU 使用率情報を表示します。
show processes log	プロセス ログの内容を表示します。

show running-config

実行コンフィギュレーションを表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

show running-config [all]

シンタックスの説明	all	(任意) デフォルトの情報およびユーザが設定した情報をすべて表示します。
------------------	------------	--------------------------------------

コマンドのデフォルト ユーザが設定した情報だけを表示します。

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、ユーザが実行コンフィギュレーションに加えた変更を表示する例を示します。

```
switch# show running-config
```

次に、デフォルト値を含む、実行コンフィギュレーション全体を表示する例を示します。

```
switch# show running-config all
```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
	show running-config diff	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。
	show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。

show running-config diff

実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示するには、**show running-config diff** コマンドを使用します。

show running-config diff

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 表 1-7 では、コマンド出力で使用される表記法を説明しています。

表 1-7 show running-config diff の表記法

表記法	説明
***** --- line1, line2 ---- *** line1, line2 ****	差異を含む行の範囲を示します。アスタリスク (*) が示す範囲の行はスタートアップ コンフィギュレーションの行で、ダッシュ (-) が示す範囲の行はスタートアップ コンフィギュレーションの行です。
+ text	この行が、実行コンフィギュレーションにはあるが、スタートアップ コンフィギュレーションにはないことを示します。
- text	この行が、実行コンフィギュレーションにはないが、スタートアップ コンフィギュレーションにはあることを示します。
! text	この行が両方のコンフィギュレーションにあるが、順番が異なっていることを示します。

例 次に、実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションとの差異を表示する例を示します。

```
switch# show running-config diff
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
show running-config	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。

show sprom

スイッチのシリアル PROM (SPROM) の内容を表示するには、**show sprom** コマンドを使用します。

```
show sprom {all | backplane | fex {chassis_ID {all | backplane | powersupply ps-num} |
all} | module module-number | powersupply ps-num | sup}
```

シンタックスの説明

all	物理デバイス上にあるすべてのコンポーネントの SPROM の内容を表示します。
backplane	バックプレーンの SPROM の内容を表示します。
fex	(任意) 接続されているファブリック エクステンダ装置に関する情報を表示します。
<i>chassis_ID</i>	(任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。有効なシャーシ ID の範囲は 100 ~ 199 です。
module module-number	I/O モジュールの SPROM の内容を表示します。有効なモジュール番号の範囲は 1 ~ 3 です。
powersupply ps-num	電源モジュールの SPROM の内容を表示します。有効な電源モジュール番号は 1 または 2 です。
sup	アクティブなスーパーバイザ モジュールの SPROM の内容を表示します。

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.0(1a)N2(1)	このコマンドは、ファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。

使用上のガイドライン

スイッチの SPROM には、シリアル番号、部品番号、リビジョン番号を含む、ハードウェアの詳細情報が含まれます。システム コンポーネントの問題を報告する必要がある場合は、**show sprom** コマンドを使用してシリアル番号情報を抽出できます。

例

次に、物理デバイス上のすべてのコンポーネントの SPROM 情報を表示する例を示します。

```
switch# show sprom all
```

次に、バックプレーンの SPROM 情報を表示する例を示します。

```
switch# show sprom backplane
```


次に、接続されたファブリック エクステンダの SPROM 情報を表示する例を示します。

```
switch# show sprom fex 101
```

関連コマンド

コマンド	説明
show hardware internal	物理ハードウェアに関する情報を表示します。
show inventory	ハードウェア インベントリ情報を表示します。

show startup-config

スタートアップ コンフィギュレーションを表示するには、**show startup-config** コマンドを使用します。

show startup-config

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、スタートアップ コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show startup-config
```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
	show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。
	show running-config diff	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。

show switchname

デバイスのホスト名を表示するには、**show switchname** コマンドを使用します。

show switchname

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **show hostname** コマンドでも、スイッチのホスト名が表示されます。

例 次に、スイッチのホスト名を表示する例を示します。

```
switch# show switchname
```

関連コマンド	コマンド	説明
	hostname	スイッチのホスト名を設定します。
	show hostname	ホスト名を表示します。
	switchname	スイッチのホスト名を設定します。

show system cores

コア ファイル名を表示するには、**show system cores** コマンドを使用します。

show system cores

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン システム コア ファイル名を設定するには、**system cores** コマンドを使用します。

例 次に、システム コア ファイルの宛先情報を表示する例を示します。

```
switch# show system cores
```

関連コマンド	コマンド	説明
	system cores	システム コア ファイル名を設定します。

show system reset-reason

スイッチのリセット履歴を表示するには、**show system reset-reason** コマンドを使用します。

show system reset-reason [fex chassis_ID]

シンタックスの説明	fex chassis_ID (任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。有効な シャーシ ID の範囲は 100 ~ 199 です。						
シンタックスの説明	このコマンドには、引数またはキーワードはありません。						
コマンドのデフォルト	なし						
コマンドモード	EXEC モード						
コマンドの履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>4.0(0)N1(1a)</td><td>このコマンドが追加されました。</td></tr><tr><td>4.0(1a)N2(1)</td><td>このコマンドは、ファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。	4.0(1a)N2(1)	このコマンドは、ファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。
リリース	変更内容						
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。						
4.0(1a)N2(1)	このコマンドは、ファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。						

例

次に、スイッチのリセット理由の履歴を表示する例を示します。

```
switch# show system reset-reason
```

次に、接続されているファブリック エクステンダのリセット理由の履歴を表示する例を示します。

```
switch# show system reset-reason fex 101
```

show system uptime

最後にシステムを再起動してから経過した時間を表示するには、**show system uptime** コマンドを使用します。

show system uptime

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、最後にシステムを再起動した後に経過した時間を表示する例を示します。

```
switch# show system uptime
```

show tech-support

シスコ テクニカル サポートの情報を表示するには、**show tech-support** コマンドを使用します。

show tech-support [**brief** | **commands** | *feature*]

シンタックスの説明	brief	(任意) デバイスのステータスに関する情報だけを表示します。
	commands	(任意) show tech-support コマンドによって実行されるコマンドの完全なリストを表示します。
	<i>feature</i>	(任意) 特定の機能名を指定します。機能のリストを表示するには、コマンドライン インターフェイス (CLI) 状況依存ヘルプ (show tech-support ? など) を使用します。

コマンドのデフォルト すべての機能の情報を表示します。

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **show tech-support** コマンドの出力は非常に長くなります。この出力は、ファイルにリダイレクトすると、効率よく処理できます。

例 次に、テクニカル サポートの情報を表示する例を示します。

```
switch# show tech-support
```

次に、テクニカル サポートの情報をファイルにリダイレクトする例を示します。

```
switch# show tech-support > bootflash:TechSupport.txt
```

次に、スイッチの簡単なテクニカル サポート情報を表示する例を示します。

```
switch# show tech-support brief
```

次に、特定の機能のテクニカル サポート情報を表示する例を示します。

```
switch# show tech-support aaa
```

次に、テクニカル サポート情報を生成するために使用するコマンドを表示する例を示します。

```
switch# show tech-support commands
```

show terminal

セッションの端末設定に関する情報を表示するには、**show terminal** コマンドを使用します。

show terminal

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、セッションの端末設定に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show terminal
```

関連コマンド	コマンド	説明
	terminal length	セッションの端末表示長を設定します。
	terminal session-timeout	セッションの端末非アクティブ セッション タイムアウトを設定します。
	terminal type	セッションの端末タイプを設定します。
	terminal width	セッションの端末表示幅を設定します。

show version

ソフトウェア バージョンに関する情報を表示するには、**show version** コマンドを使用します。

show version [*fex chassis_ID* | *image filename*]

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<i>fex chassis_ID</i>	(任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。有効な シャーシ ID の範囲は 100 ~ 199 です。
	<i>image filename</i>	(任意) システム イメージ ファイルまたはキックスタート イメージ ファイルのバージョン情報を表示します。

コマンドのデフォルト 実行中のキックスタート イメージ ファイルおよびシステム イメージ ファイルのソフトウェア バージョン情報を表示します。

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
	4.0(1a)N2(1)	このコマンドは、ファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。

例 次に、デバイスで実行中の、キックスタート イメージ およびシステム イメージのバージョン情報を表示する例を示します。

```
switch# show version
```

次に、イメージ ファイルのバージョン情報を表示する例を示します。

```
switch# show version image bootflash:old_image
```

次に、接続されているファブリック エクステンダのバージョン情報を表示する例を示します。

```
switch# show version fex 101
```

sleep

コマンドライン インターフェイス (CLI) が、プロンプトを表示する前に一時停止するよう設定するには、**sleep** コマンドを使用します。

sleep *seconds*

シンタックスの説明	<i>seconds</i>	時間を秒単位で指定します。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。
------------------	----------------	--

コマンドのデフォルト	なし
-------------------	----

コマンド モード	EXEC モード
-----------------	----------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	このコマンドをコマンド スクリプトで使用すると、スクリプトの実行を遅らせることができます。
-------------------	---

例	次に、プロンプトを表示する前に CLI を 5 秒間、一時停止させる例を示します。 switch# sleep 5
----------	---

関連コマンド	コマンド	説明
	run-script	コマンド スクリプトを実行します。

speed

コンソール ポートの送受信速度を設定するには、**speed** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

speed *speed*

no speed *speed*

シンタックスの説明	<i>speed</i>	速度を bps（ビット/秒）単位で指定します。有効な速度は 300、1200、2400、4800、9600、19200、38400、57600、または 115200 です。
------------------	--------------	--

コマンドのデフォルト	デフォルトのコンソール ポート速度は 9600 bps です。
-------------------	---------------------------------

コマンド モード	端末ライン コンフィギュレーション
-----------------	-------------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションからだけ設定できます。
-------------------	--

例	次に、コンソール ポートの速度を設定する例を示します。
----------	-----------------------------

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# speed 57600
```

次に、コンソール ポートのデフォルトの速度に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no speed 57600
```

関連コマンド	コマンド	説明
	line console	コンソール端末コンフィギュレーション モードを開始します。
	show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

stopbits

コンソール ポートのストップ ビットを設定するには、**stopbits** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

stopbits {1 | 2}

no stopbits {1 | 2}

シンタックスの説明

1	1 ストップ ビットを指定します。
2	2 ストップ ビットを指定します。

コマンドのデフォルト

1 ストップ ビットです。

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションからだけ設定できます。

例

次に、コンソール ポートのストップ ビット数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# stopbits 2
```

次に、コンソール ポートのストップ ビット数をデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no stopbits 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール端末コンフィギュレーション モードを開始します。
show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

system cores

システム コアの宛先を設定するには、**system cores** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
system cores tftp:tftp_URL [vrf management]
```

```
no system cores
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	tftp:	TFTP サーバを指定します。
	<i>tftp_URL</i>	宛先のファイル システムおよびファイルの URL を指定します。次の形式を使用します。 <i>[//server[:port]][/path/]filename</i>
	vrf management	(任意) デフォルトの仮想ルーティングおよびフォワーディング (VRF) を使用するように指定します。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、コア ファイルを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# system cores tftp://serverA:69/core_file
```

次に、システム コア ログイングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no system cores
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show system cores	コア ファイル名を表示します。

system startup-config unlock

スタートアップ コンフィギュレーション ファイルのロックを解除するには、**system startup-config unlock** コマンドを使用します。

system startup-config unlock *process-id*

シンタックスの説明

<i>process-id</i>	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルをロックしたプロセスの ID を指定します。
-------------------	--

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

スタートアップ コンフィギュレーション ファイルのロックを表示するには、**show system internal sysmgr startup-config locks** コマンドを使用します。

例

次に、スタートアップ コンフィギュレーションのロックを解除する例を示します。

```
switch# system startup-config unlock 10
```

switchname

デバイスのホスト名を設定するには、**switchname** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchname *name*

no switchname

シンタックスの説明

<i>name</i>	スイッチのホスト名を指定します。この名前は 32 文字以下の長さの英数字で、大文字と小文字を区別し、特殊文字を含むことができます。
-------------	---

コマンドのデフォルト

デフォルトのホスト名は「switch」です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Cisco NX-OS ソフトウェアは、CLI プロンプト、およびデフォルトのコンフィギュレーション ファイル名でホスト名を使用します。

switchname コマンドは、**hostname** コマンドと同じ機能を実行します。

例

次に、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチのホスト名を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# switchname Engineering2
Engineering2 (config)#
```

次に、デフォルトのホスト名に戻す例を示します。

```
Engineering2# configure terminal
Engineering2 (config)# no switchname
switch (config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
hostname	スイッチのホスト名を設定します。
show hostname	スイッチのホスト名を表示します。
show switchname	スイッチのホスト名を表示します。

tail

ファイルの末尾の行を表示するには、**tail** コマンドを使用します。

```
tail [filesystem: [//server/]] [directory].filename [lines]
```

シンタックスの説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash 、 modflash 、または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前を指定します。有効な値は <i>///</i> 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (<i>//</i>) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	表示するファイルの名前を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>lines</i>	(任意) 表示する行数を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 80 です。



(注)

filesystem://server/directory/filename 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドのデフォルト

末尾の 10 行を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ファイルの末尾の 10 行を表示する例を示します。

```
switch# tail bootflash:startup.cfg
```

次に、ファイルの末尾の 20 行を表示する例を示します。

```
switch# tail bootflash:startup.cfg 20
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
copy	ファイルをコピーします。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

terminal length

現在のセッションの端末画面で出力が一時停止する前に表示する出力行数を設定するには、**terminal length** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal length lines

terminal no length

シンタックスの説明

lines 表示する行数を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 511 です。出力の表示中に一時停止しないようにするには 0 を指定します。

コマンドのデフォルト

コンソールの初期デフォルト値は 0（出力を一時停止しない）です。仮想端末セッションの初期デフォルト値はクライアント ソフトウェアにより定義されます。**no** 形式のデフォルト値は 24 行です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

セッションは、**terminal length** で設定された数の行を表示した後に一時停止します。次の行画面を表示するにはスペース バーを押します。または、**Enter** キーを押すと、次の行が表示されます。コマンドプロンプトに戻るには、**Ctrl** キーを押した状態で **C** キーを押します。

端末の行数の設定は、現在のセッションにだけ適用されます。

例

次に、一時停止する前に端末に表示されるコマンド出力の行数を設定する例を示します。

```
switch# terminal length 28
```

次に、デフォルトの行数に戻す例を示します。

```
switch# terminal no length
```

関連コマンド

コマンド	説明
show terminal	端末セッションの設定を表示します。

terminal session-timeout

現在のセッションの端末無活動タイムアウトを設定するには、**terminal session-timeout** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal session-timeout *minutes*

terminal no session-timeout

シンタックスの説明	<i>minutes</i>	時間を分単位で指定します。有効値は 0 ~ 525600 分 (8760 時間) です。端末無活動タイムアウトをディセーブルにするには、0 を指定します。
------------------	----------------	---

コマンドのデフォルト 端末セッション タイムアウトはディセーブルです (0 分)。

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 端末セッション無活動タイムアウトの設定は、現在のセッションにだけ適用されます。

例 次に、セッションの端末無活動タイムアウトを 10 分に設定する例を示します。

```
switch# terminal session-timeout 10
```

次に、セッションのデフォルトの端末無活動タイムアウトに戻す例を示します。

```
switch# terminal no session-timeout
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show terminal	端末セッションの設定を表示します。

terminal terminal-type

現在のセッションの端末タイプを設定するには、**terminal terminal-type** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal terminal-type *type*

terminal no terminal-type

シンタックスの説明	<i>type</i>	端末のタイプを指定します。タイプ文字列は 80 文字以下で、大文字と小文字を区別します。また、有効なタイプ (ansi、vt100、または xterm など) である必要があります。
コマンドのデフォルト		仮想端末の場合は、クライアント ソフトウェアとのネゴシエーション中に端末タイプが設定されます。これ以外の場合、デフォルト値は vt100 です。
コマンド モード		EXEC モード
コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン		端末タイプの設定は、現在のセッションにだけ適用されます。
例		次に、端末タイプを設定する例を示します。 <pre>switch# terminal type xterm</pre> 次に、デフォルトの端末タイプに戻す例を示します。 <pre>switch# terminal no type</pre>
関連コマンド	コマンド	説明
	show terminal	端末セッションの設定を表示します。

terminal width

セッションの現在の行を表示する端末画面上の文字の列数を設定するには、**terminal width** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal width columns

terminal no width

シンタックスの説明	<i>columns</i>	列の数を指定します。指定できる範囲は 24 ~ 511 です。
コマンドのデフォルト	仮想端末の場合は、クライアント ソフトウェアとのネゴシエーション中に列の数が設定されます。これ以外の場合、デフォルト値は 80 列です。	
コマンド モード	EXEC モード	
コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	端末の列数の設定は、現在のセッションにだけ適用されます。	
例	次に、端末に表示する列の数を設定する例を示します。 switch# terminal width 70	
	次に、デフォルトの列数に戻す例を示します。 switch# terminal no width	
関連コマンド	コマンド	説明
	show terminal	端末セッションの設定を表示します。

traceroute

IP アドレスに到達するまでにパケットがたどるルートを調べるには、**traceroute** コマンドを使用します。

```
traceroute {dest-addr | hostname} [vrf {vrf-name | default | management}] [source src-addr]
```

シンタックスの説明

<i>dest-addr</i>	宛先デバイスの IP アドレスを指定します。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。
vrf { <i>vrf-name</i> default management }	(任意) 使用する仮想ルーティングおよびフォワーディング (VRF) を指定します。大文字と小文字が区別されます。
source <i>src-addr</i>	(任意) 送信元 IP アドレスを指定します。フォーマットは、 <i>A.B.C.D</i> です。デフォルトは、スイッチの管理インターフェイスの IPv4 アドレスです。

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ネットワーク デバイスへのルートを調べる例を示します。

```
switch# traceroute 172.28.255.18 vrf management
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping	別のネットワーク デバイスへのネットワーク接続性を表示します。
traceroute6	IPv6 アドレッシングを使用してデバイスへのルートを調べます。

traceroute6

IPv6 アドレスに到達するまでにパケットがたどるルートを調べるには、**traceroute6** コマンドを使用します。

```
traceroute6 {dest-addr | hostname} [vrf {vrf-name | default | management}] [source src-addr]
```

シンタックスの説明

<i>dest-addr</i>	宛先デバイスの IPv6 アドレスを指定します。フォーマットは、 <i>A:B::C:D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスの名前を指定します。大文字と小文字が区別されます。
vrf { <i>vrf-name</i> default management }	(任意) 使用する仮想ルーティングおよびフォワーディング (VRF) を指定します。大文字と小文字が区別されます。
source <i>src-addr</i>	(任意) 送信元 IPv6 アドレスを指定します。フォーマットは、 <i>A:B::C:D</i> です。デフォルトは、スイッチの管理インターフェイスの IPv6 アドレスです。

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)NI(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、デバイスへのルートを調べる例を示します。

```
switch# traceroute6 2001:0DB8::200C:417A vrf management
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping6	Internet Protocol Version 6 (IPv6; インターネット プロトコルバージョン 6) アドレッシングを使用して他のデバイスへの接続性を調べます。
traceroute	IPv4 アドレッシングを使用してデバイスへのルートを調べます。

update license

既存のライセンスを更新するには、**update license** コマンドを使用します。

```
update license [filesystem: [//server/]] [directory] src-filename [target-filename]
```

シンタックスの説明	
<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効な値は bootflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前を指定します。有効な値は /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ 、または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>src-filename</i>	元のライセンス ファイルの名前を指定します。
<i>target-filename</i>	(任意) ターゲット ライセンス ファイルの名前を指定します。



(注) *filesystem://server/directory/filename* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、ライセンスを更新する例を示します

```
switch# update license bootflash:fm.lic fm-update.lic
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show license	ライセンス情報を表示します。

write erase

固定メモリ領域内の設定を消去するには、**write erase** コマンドを使用します。

write erase [boot | debug]

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	boot	(任意) ブート設定だけを消去します。
	debug	(任意) デバッグ設定だけを消去します。

コマンドのデフォルト 固定メモリ内のすべての設定を消去します。

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 情報が破損しているなどの理由で使用できない場合は、このコマンドを使用して、固定メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーションを消去できます。スタートアップ コンフィギュレーションを消去すると、スイッチが初期状態に戻ります。

例 次に、スタートアップ コンフィギュレーションを消去する例を示します。

```
switch# write erase
```

次に、固定メモリ内のデバッグ設定を消去する例を示します。

```
switch# write erase debug
```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
	show running-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。